教職課程センター紀要　第2号　111－112ページ，2017年12月
Jour. Center Teacher Develop. Edu. Res., Daito Bunka Univ., No.2 111-112, Dec. 2017

論　　文

# 中国語作文授業の試み

# Attempt of Chinese Writing Class

張　竹翠

Zhucui ZHANG

Key words：中国語作文，誤用文法，トピック，スピーチ
Chinese-writing, misstatement grammar, topic, speech

## 一，はじめに

約十年近く複数の大学で，中国語学科もしくは第二外国語としての中国語作文の授業を担当してきた。最初に書店や図書館などを回って，いくつかの教材を見てきた。またほかの大学のシラバスを調べて，それぞれの中国語作文の授業計画も調査した。先輩講師たちの著書と授業を垣見して，色々と得ることは多々あり，中から疑問を持ったところもあった。

一つ目は，一般的な文法や会話などを含め，中国語誤用に関する書籍があったが，作文向けの頻出の誤用文法をまとめる本は少なかった。二つ目は，中国語作文の授業では，文法や短文の日文中訳にとどまることがほとんどで，少し長めの文章的な作文練習が少なかった。

そして，実際に授業を教えているうちに，作文を書く段階から学生の知識になるまで，何か学生に手伝えることがないかと考え始めた。

本稿では，主に上記に述べた疑問，考えを解決，実践するため，筆者がこの十年間中国語作文授業について，教材案や教授法の面からの試みを紹介する。

## 二，中国語作文向けの誤用文法

基礎中国語，中国語会話，総合中国語，中国語試験対策など，今まで教えてきた中国語授業の一般学習者の誤用文法を踏まえて，作文授業を中心に，大学生をはじめ，一般日本人学習者が作文を書く時頻出の誤用文法を調査，統計し，ポイントを抑えて，単文五項目，複文五項目にまとめてみた。

単文の文法から例を挙げると，周知のとおり，様々な補語を誤用するケースは多い。その中では，更に作文を書くことを焦点に当てれば，時量補語について時量の位置，様態補語の場合に離合詞，方向補語を使うとき場所名詞の位置，可能補語の場合に否定形の使用などが最も頻度の高い，代表的な誤用項目として考えている。

複文の場合，様々な複文接続詞を七種類に分類し，単文と同じように，誤用の多い種類の接続詞の中で，もっとも多く誤用されるケースをまとめた。例えば，選択関係の接続詞には，「或者」と「 还是」の区別，並列関係の接続詞との区別として「不是～而是」と「不是～就是」が挙げている。また，「既然～就」「即使～也」の文に，「就」と「也」の後ろに続く文の特性，「无论～都」「不管～都」の文に前半に出る文の特性についても述べている。そして，主語と接続詞，主語と副詞の位置などもよく間違えられるので，取り上げている。

特に複文について，筆者の調べる範囲では，誤用に関する著作や教材など少なく，しかし，単文を習得してから，ワンランク上の段階に作文を書こうとすれば，車両間の連結する部分のようで，複文接続詞の役割が大きい。

今まで，学生たちの作文の中に，①「我游泳得不太好。」，②「我既然感冒了，就没去上课。」，③「他又长得漂亮，又学习很好。」のような誤文は珍しくない。しかし，場合によって，a「我说汉语说得不太好」，b「我感冒了，所以没去上课」，c「他又聪明，又漂亮」のような文がきちんとできていたのに，上記の誤文が出たの

はなんだろう。そこで，筆者は例①に対して，離合詞の様態補語，例②に対して接続詞「既然～就」と「因为～所以」の区別，主に「就」に続く文の特性，また例③に対して主述フレーズ述語文の場合に，副詞「又」の位置を取り上げて，文法を明確し，様々な形で練習させ，作文に書かせる。

## 三，トピック作文とスピーチ

文法や短文の日文中訳にとどまらずに，身近な話題なら，文章でも書いてもらおうと思い，一時間半の授業の後半三十分を利用し，二回一本のペースでトピック作文を書かせている。

トピックの内容は，自己紹介から自分の一家，一日，趣味など自分の見回りのことから，乗り換え，道案内，買い物，両替，食事，電話を掛ける，診察を受ける，旅行，託送など実際の中国現地生活まで目を配って，更に誘う，残念，祝賀などのような自分の気持ちについての話題も含まれる。

一年間の授業で12個のテーマを巡って，学生たちは模範文を学び，実体験を連想し，作文を書く。そして，筆者は全クラスの全員の作文を添削，説明し，誤文の文法項目を再確認する。

トピック作文を書いた後，作文を書く過程で習った文法や使った語彙などを学生に今後自由自在に使えてもらうために，作文を繰り返して音読し，そして分かれたグループ内でお互いに読み上げ，更に違うグループの中で，最後にクラスみんなの前で発表してもらうことにした。こうすることで，最初に読み上げるだけの発表から一部の学生がだんだんと原稿なしで発表できるようになり，200字前後，時にはそれ以上のトピック作文の内容もいつの間に書けるようになった。

書くことから話すことへと，その喜びを次の源になり，更に書くことへ，少しずつ好循環になる。

## 四，材によって教えを施す

著者の担当する中国語作文の授業では，中国語検定試験の水準から言うと，４級から２級までの生徒がいる。それで，レベル，特徴に応じて，段階別に，学科別に文法項目を練り，異なった方法でトピック作文へと啓発する。

トピック作文を教える場合，特にレベル別，段階別の特徴が大きい。３級から２級レベルに向かう学生は模範文を学び，実体験を連想し，直接作文が書ける。それに対して，４級から３級に向かう学生には，みんなの実体験から一つ，二つを選び，まず日本語で表現してもらおう。そして，その日本語をみんなの力で中国語に訳す。時には，教師は模範文を教えた後，直接一つの日本語の例文を提示し，みんなで中国語にしてもらう。授業を数回経った後に，学生が自ら中国語で考え，中国語で作文を書くことを指示する。

それから，学科別に特徴に応じて，誤文文法の重点も異なる。たとえ同じ時刻，時量などに触れる文法項目であっても，英語学科の中国語作文には，「我学习汉语在图书馆下午。」，「小王去北海道旅游了黄金周。」のような誤文はよく出ており，他専攻の場合，「我每天看电视两个小时。」，「他一次看过京剧。」のような誤文は出てくる。それに応じて，英語学科では，主に時間詞，場所詞と動詞の位置について練習し，他専攻の場合には，時量補語と動詞の語順に関する練習を繰り返す。

## 五，終わりに

上記のように，一般的な誤用例を踏まえて，作文を書くことに向けて，筆者は合計10項目の誤用文法をまとめた。それを日文中訳，語順並び，間違い探しなどの練習を通し，正確な書き方を定着させる。

また，それらの文法を積極的に使用し，身近な話題について，100字前後から200字くらいまで書き，そして，前期，後期一回ずつ字数制限の無いが，実際大多数の学生が400字ほどのぼる作文を書ける。

その400字ほどのものは毎年「思い出」と「将来の夢」という指定テーマが決まっており，題名，内容自由で，中国語で書いてもらった。これらの作文を10年分でも読んで，外国語と思われないほど，学生たちの喜び，悲しみ，感動，憧れなどの心の声が違和感なく届く。学生たちが書いた時にも，きっと自分の心の声を母国語に近い中国語に滲んだだろう。

このようなトピック作文をまた再三の音読，読み上げ練習を通し，スピーチまで発展させ，きっと少なくならずに学生の頭に残るだろう。

## 参考文献

『中国語会話301』康玉华，来思平著 アジア語文出版
『why?にこたえるはじめての中国語の文法書』相原茂等著　同学社
『書く中国語』董燕 遠藤光暁著　朝日出版社
『日本人の中国語—誤用例54例』来思平　相原茂著　東方書店
『文法講義』朱德熙著 杉村博文・木村英樹訳　白帝社